

高齢透析患者に対してⅠ・Ⅱ型 ダイアライザを使用して

つばさクリニック

深瀬 征樹 内田 広康 大木 正人
大山 恵子 諸見里 仁 大山 博司

目的

- 日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況」によると、現在全国の透析患者の90%以上がⅣ・Ⅴ型ダイアライザを使用している。当院では全透析患者139名中、高齢者を中心に12名(約8.6%)がⅠ・Ⅱ型のダイアライザを使用しているが、材質の異なるⅠ・Ⅱ型ダイアライザを使用した時のそれぞれの膜特性と血液データの変化を比較検討した。

方法

8名の患者に対しニプロ社製FB150EG(Ⅰ型)と旭化製メディカル社製KFm-15(Ⅱ型)を4時間透析、血液流量150ml/minで使用し、除去率及び排液より各溶質の除去量を求めた。またそれぞれ 3か月使用した後の血液データの比較及び栄養状態を確認した。

検査項目

血液データ: BUN Cr IP Alb β 2MG α 1MG Hb

排液 : IP マイクロAlb β 2MG α 1MG アミノ酸

* 排液部分採取法

対象及び対象者データ

- 70歳以上の高齢透析患者8名

男性 4名 女性 4名

平均年齢 78.8歳

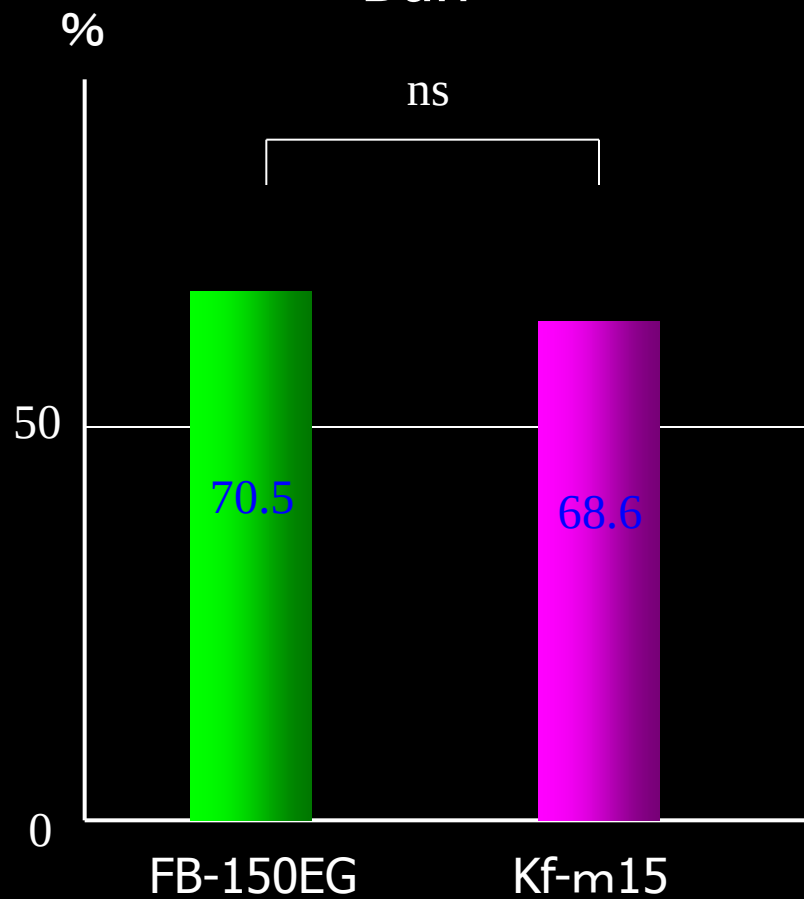
平均透析年数 5年6か月

平均体重 43.6kg Alb 3.66g/dL

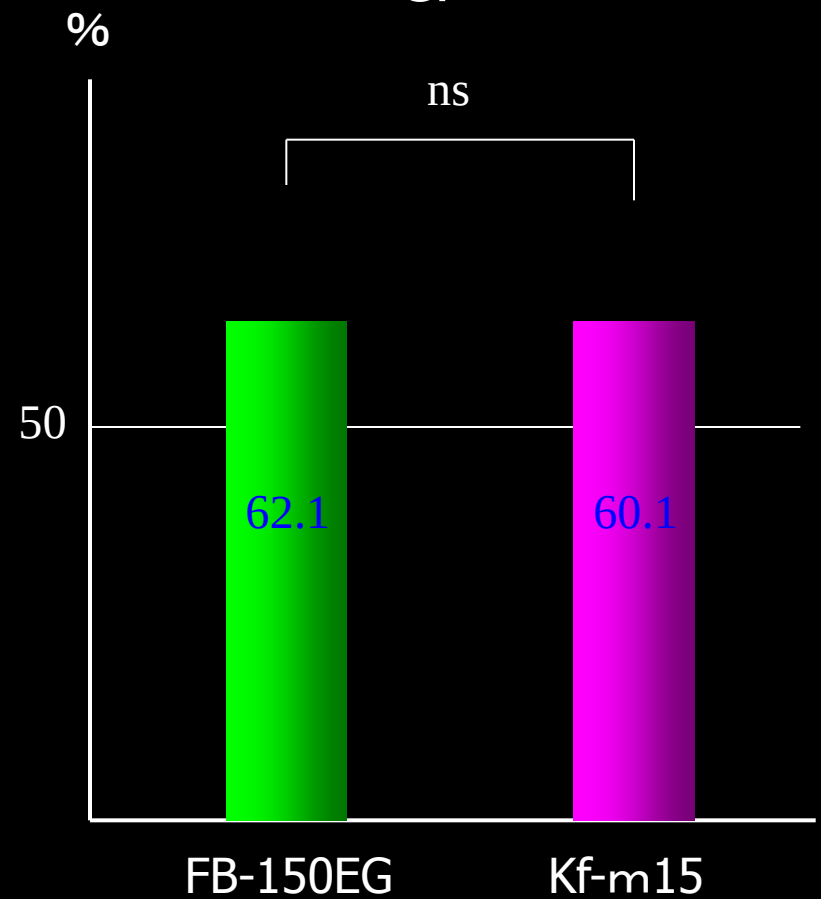
Hb 10.2g/dL β 2MG 31.5mg/L

結果(除去率)

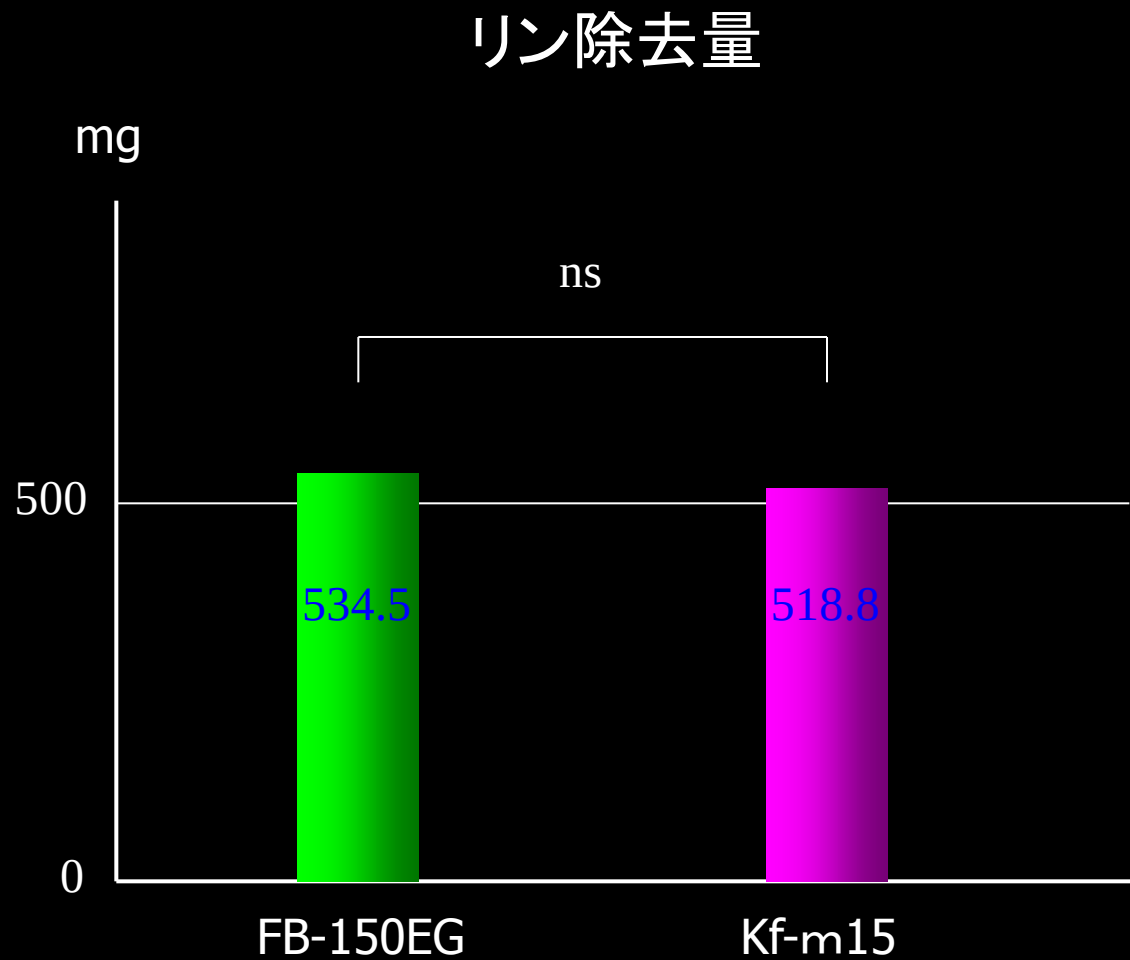
Bun



Cr

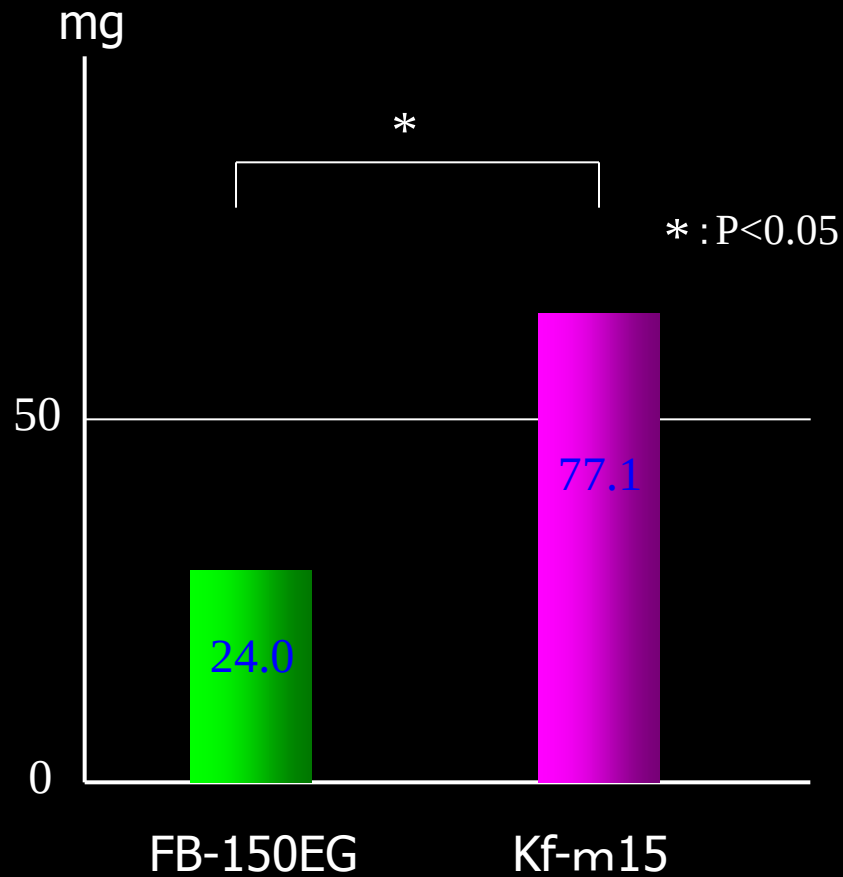


結果(排液1)

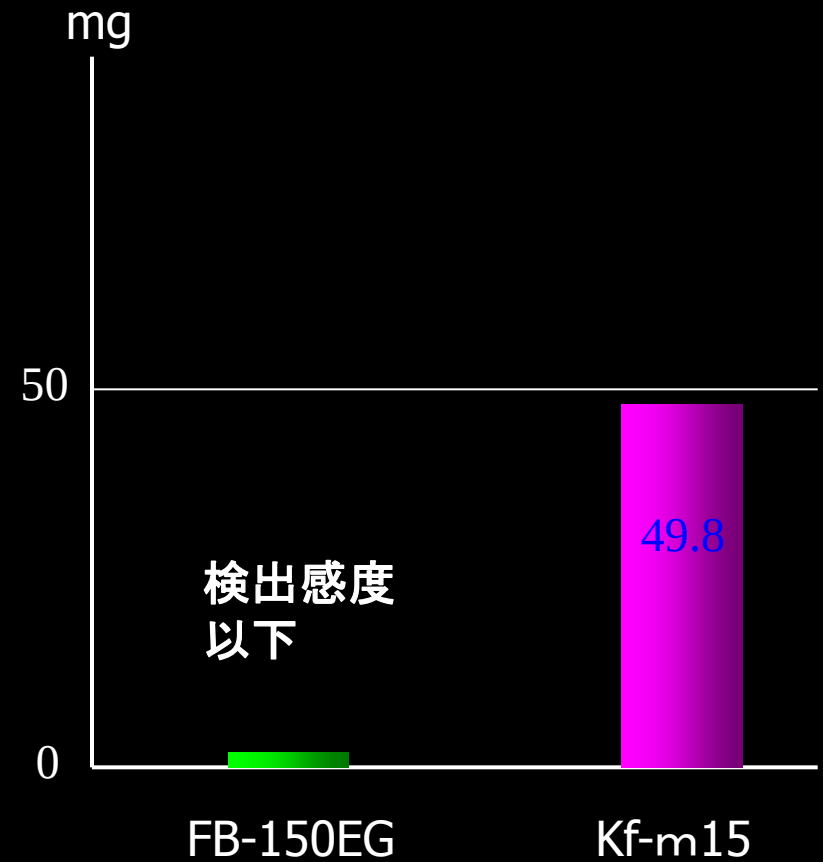


結果(排液2)

β 2MG

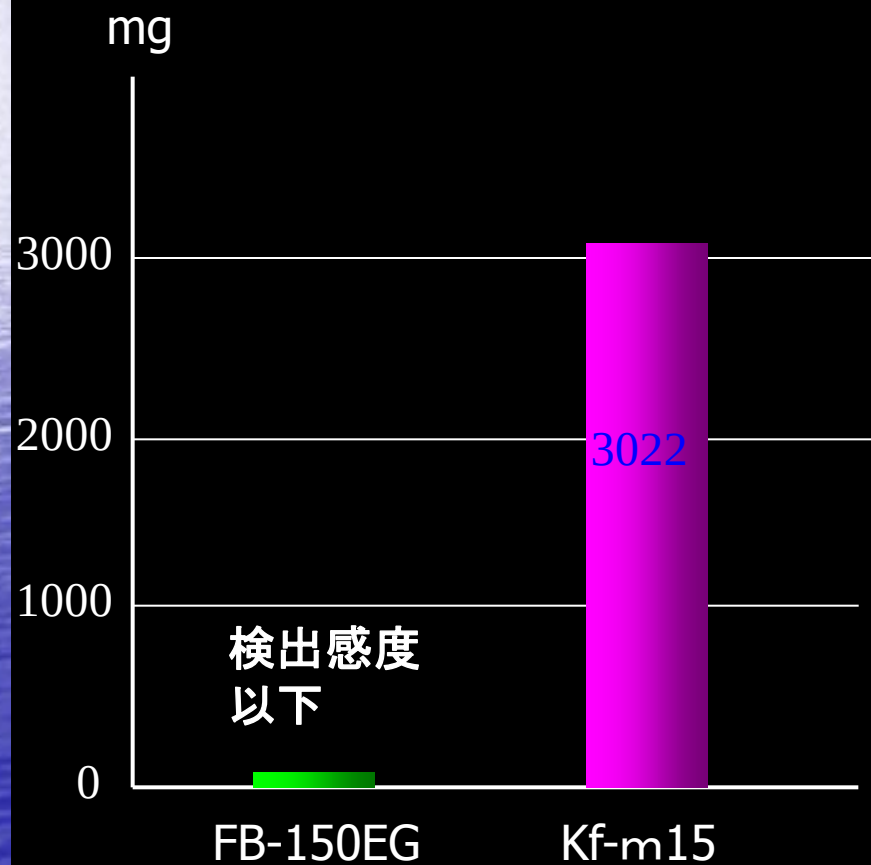


α 1MG

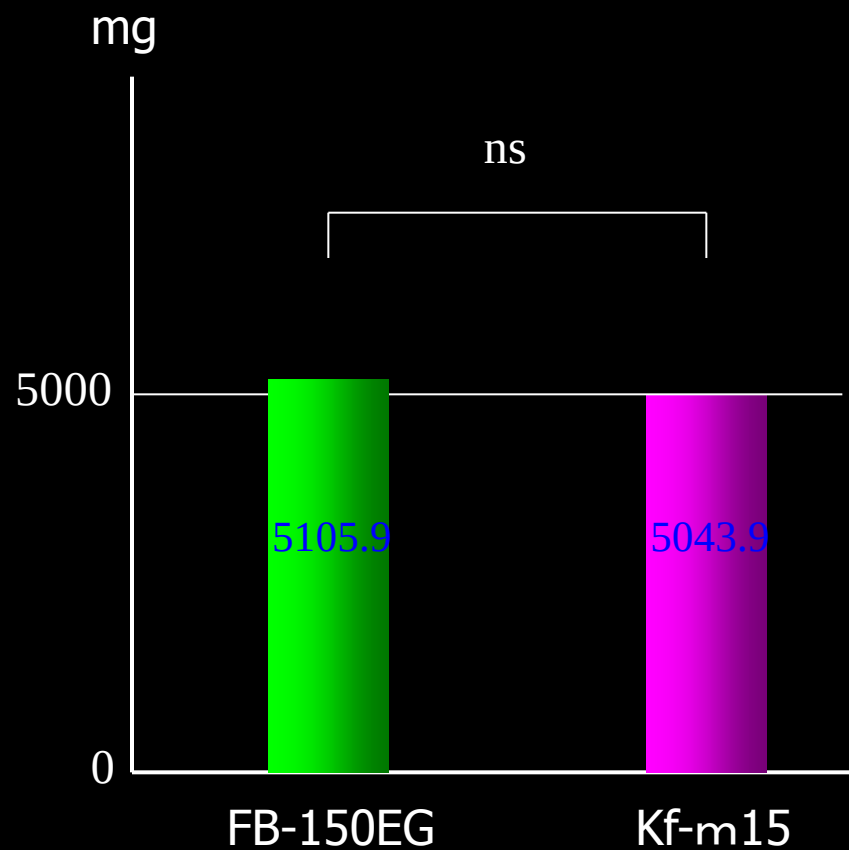


結果(排液3)

アルブミン

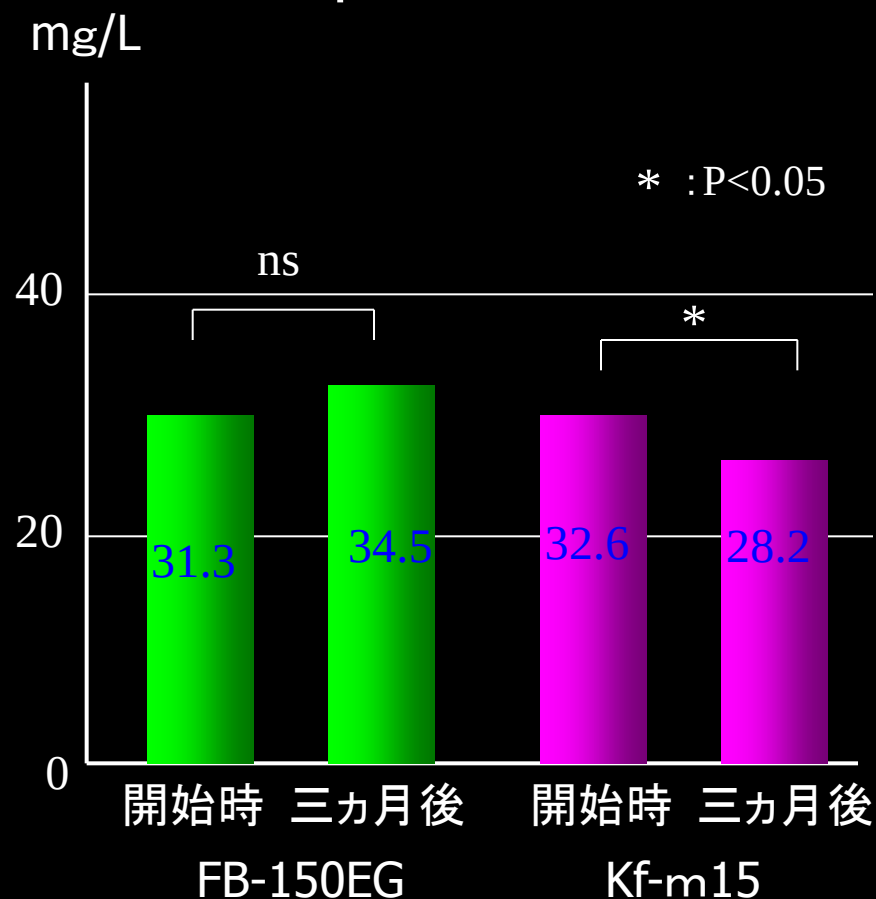


アミノ酸

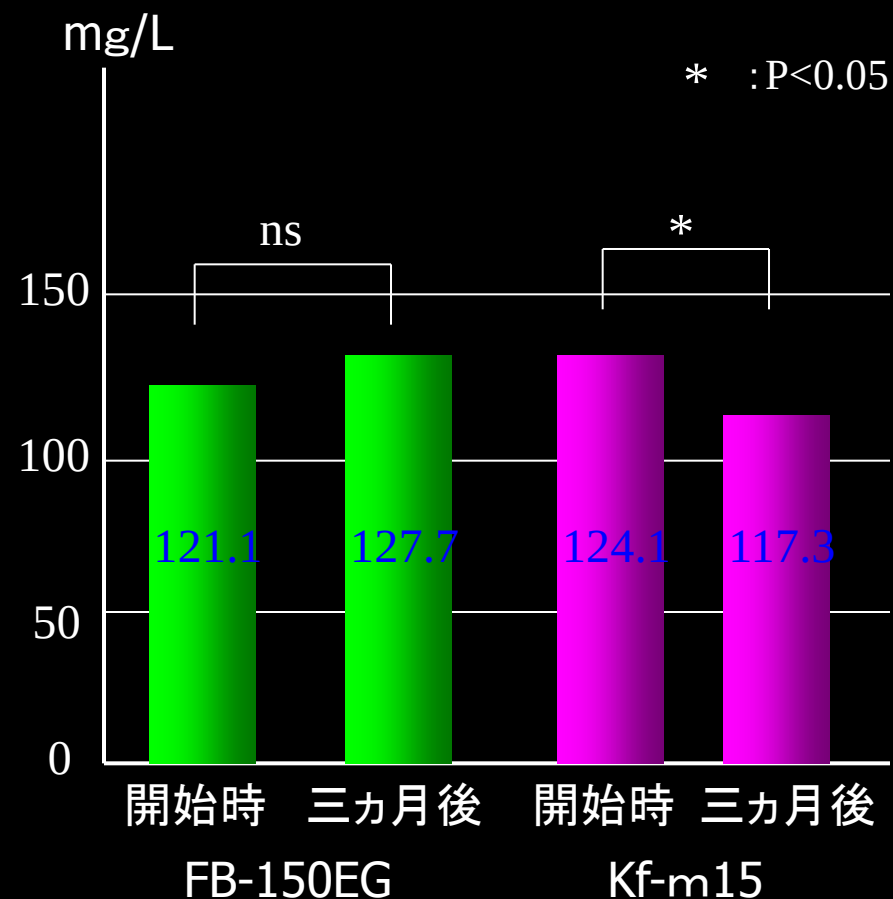


結果(3か月間の変化1)

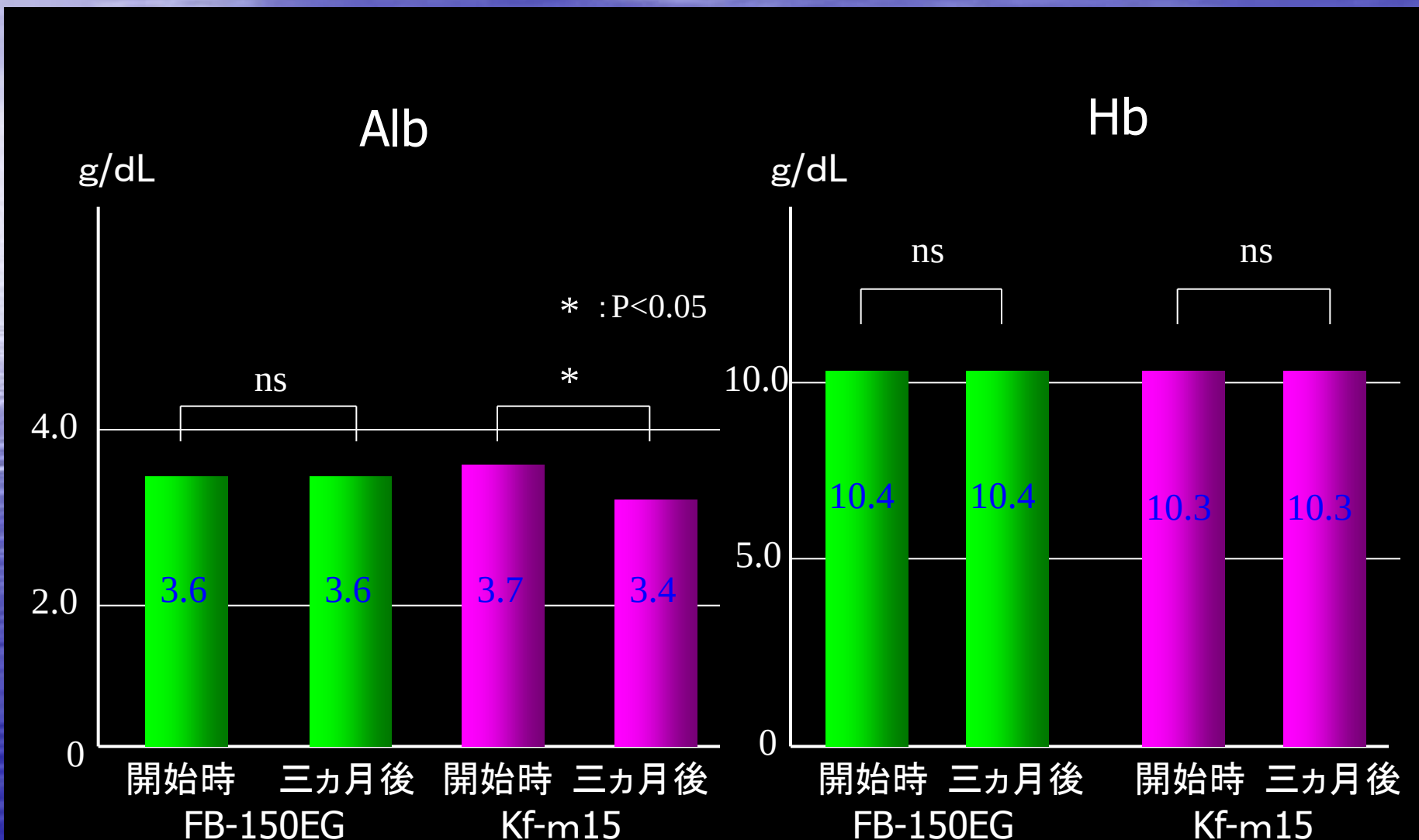
β 2MG



α 1MG



結果(3か月間の変化2)



まとめ

- カタログ性能ではFB150EGのBUN・CrのクリアランスはKf-m15に比べ高く表記されているが今回QB150ml/minの条件下では除去率に有意差はなかった。
- 排液の検査結果よりFB150EGはカットオフがクリアーなのに対しKFm-15 はブロード特性という特徴がみられ、3か月後の血液データの値もこの特徴を反映するものとなった。

結語

- I・II型のダイアライザは膜質により除去特性は大きく異なり、使用に際しては特性を十分に考慮すべきだと思われる。

日本透析医学会 COI 開示

筆頭発表者名： 深瀬 征樹

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業などとして、

①顧問：	なし
②株保有・利益：	なし
③特許使用料：	なし
④講演料：	なし
⑤原稿料：	なし
⑥受託研究・共同研究費：	ニプロ株式会社
⑦奨学寄付金：	なし
⑧寄附講座所属：	なし
⑨贈答品などの報酬：	なし